

実践事例発表 13:45 ~ 14:45

1 「ふるさとを愛する子の育成をめざした環境学習

～コウノトリを通していのちのつながりを考える～」

豊岡市立三江小学校教諭

佐々真由美

2 「海的环境保全に取り組む実践的な態度を身につける

～成ヶ島のクリーン作戦を通して～」

洲本市立由良中学校教諭

中尾浩二

3 「守れ!先人の財産 ～いなみ野ため池群世界遺産化計画～」

県立農業高等学校教諭

長光雅実

県農ため池調査班

『県農ため池調査班』

『県農ため池調査班』は農業クラブの専門班のひとつである。この農業クラブは、全国の農業科や総合学科に学ぶ11万人の高校生が所属している全国組織であり、各種競技会や交流会などのいろいろな活動をとおして、「科学性」「社会性」「指導性」を高め、農業はもとより、幅広い産業分野で活躍できる優れた資質を身につけるよう、自主的・自発的に活動を行っている。

[活動歴]

平成15年 4月	県主催『兵庫未来講座』の研究指定を受け、ため池に関する活動を開始
平成16年 4月	農業クラブ専門班 『県農ため池調査班』設立
平成17年 2月	平成16年度 グリーンスクール表彰受賞
平成17年 7月	兵庫県学校農業クラブ連盟大会 プロジェクト発表環境の部 最優秀賞
平成17年 8月	近畿学校農業クラブ連盟大会 プロジェクト発表環境の部 最優秀賞
平成17年10月	日本学校農業クラブ全国大会 岐阜大会出場(予定)

- 発表者 -

〔3年生〕 農業科 樋口 亮介、畜産科 馬方祐二郎、農業科 井上 英龍

農業科 鳴瀧 翔大、畜産科 前田 飛鳥、園芸科 上垣 和沙

〔2年生〕 農業科 志賀 雅代

「ふるさとを愛する子の育成をめざした環境学習
～コウノトリを通していのちのつながりを考える～」

豊岡市立三江小学校教諭 佐々真由美

〔取り組みの概要〕

本校は、校区内外に豊かな自然環境がある。また、野外から姿を消したコウノトリを野生復帰させるための取り組みの拠点施設である「県立コウノトリの郷公園」や「市立コウノトリ文化館」があり、校外学習が容易にできる環境にある。今年9月試験放鳥されたコウノトリの野生復帰には多くの地域の人たちがかかわってきた。このような状況の中で「地域や学校の特色に応じた課題」を「総合的な学習の時間」で扱うことにし、環境教育を中心に取り組んできた。

1 活動の趣旨

コウノトリにかかわる学習などを通して、地域の自然環境についての理解を深め、コウノトリと共生する地域づくりに向けた実践的な態度を養う。

自分と地域の人々・自然・文化などとの関わりに関心を持ち、ふるさと三江を愛する心を育てる。

2 活動の内容

(1) 「総合的な学習の時間」における取り組み

3年生・・・コウノトリの郷公園のガイドウォークを中心とした「気づこう いのち」の学習

『失われつつある命』の学習

- ・ 「シュレーゲルガエル」「モリアオガエル」の卵塊
- ・ 「ハッチョウトンボ」
- ・ 「オトシブミのゆりかご」「モウセンゴケ」

『命のつながり』の学習

- ・ 「アニマルトラッキング」
- ・ 「コウノトリの体・えさ」



ガイドウォーク

4年生・・・無農薬農法「アイガモ農法」を中心とした「考えよう いのちのつながり」の学習

『アイガモ農法』でやさしい米作りを考えよう

- ・ 田おこしから収穫祭まで・・・
- ・ アイガモの歴史と飼育 - アイガモ稲作研究会協力 -
- ・ 田んぼの虫を調べよう - 害虫・益虫・ただの虫 -
- ・ コウノトリの巣作りをしよう - 無農薬のわらをつかって -

『バケツイネ』を育て、お米について知ろう

- 近畿農政局協力 -
- ・ 外国のお米と日本のお米
- ・ 日本の米作り
- ・ 脱穀実験



田植え

5年生・・・コウノトリを野生に帰すために自分たちの地域について知る

「みつめよう いのち」の学習

- 『コウノトリの飼育体験』でコウノトリのいのちをみつめよう
- 『いのちの調査団』結成！ - 地域のいのちをみつめよう -
 - ・ 里山と周辺の山の比較
 - ・ 湿地の小さな生き物(プランクトン)から命の連鎖を調べる
 - ・ 校区に生息する外来種の種類と数
- 『インタビュー活動』の中で地域の人々の気持ちを知ろう
- 『コウノトリの目撃調査』を全校に呼びかけよう



里山探索

6年生・・・コウノトリと地域のかかわりについて関心を持ち、実践する

「感じよう いのちの尊さを」の学習

- 『松の木調査』でコウノトリの巣作りと地域を考えよう
 - ・ マツノザイセンチュウ抽出実験
- 『わたしたちにできること』を実践しよう
 - ・ クリーン作戦
 - ・ 一人1冊の絵本づくりで発信しよう
 - ・ 募金活動

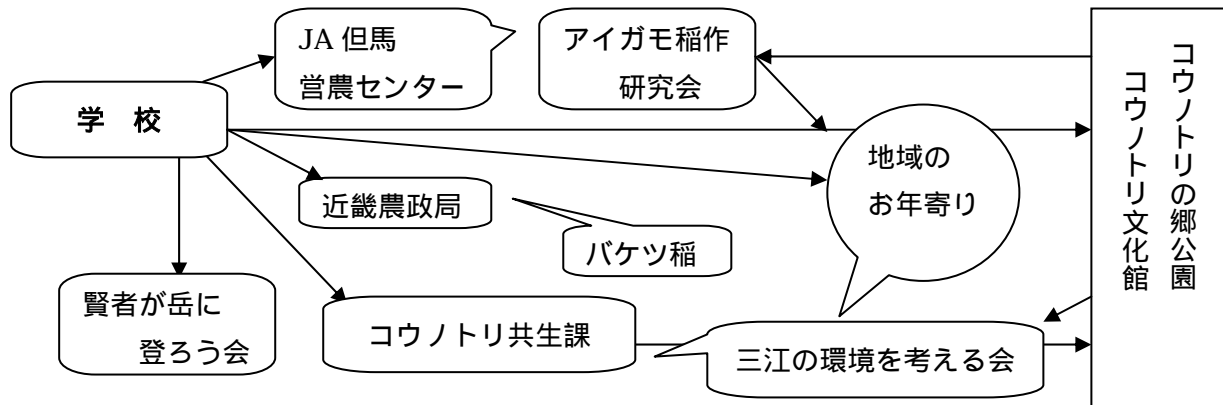


コウノトリ絵本

(2) 特別活動における取り組み

児童会による「コウノトリ基金」への募金活動
環境の日

3 地域等との連携について



4 今後の課題

コウノトリと自分とのつながりを考え実践する力をつけることができたかという点においては、コウノトリを友好的に捉えることで意識が高まってきているものの、まだまだ十分とは言えない。広い視野で環境を捉え、自分とのつながりを考えさせるために、「総合的な学習の時間」の授業にとどまらず、各教科・道徳・特別活動(学級活動)の年間指導計画に環境教育の位置づけを行い、横断的な授業実践を行う必要がある。

「海の環境保全に取り組む実践的な態度を身につける

～成ヶ島のクリーン作戦を通して～

洲本市立由良中学校教諭 中尾 浩 二

〔取り組みの概要〕

豊かな自然を守るため、町をあげての清掃活動へ学校として積極的に参加することからこの取り組みが始まった。ハマボウ鑑賞会や清掃活動、生徒が環境問題について発表するシンポジウム等、地元成ヶ島保全にむけて、瀬戸内海、大阪湾各地区の関係団体と意見を交換する成ヶ島シンポジウムを開催し、「トライやる・ウィーク」のなかで漁業体験を行うなど、地域住民と連携しながら体験的な環境学習を進めてきた。また、紀伊水道に面した海岸という立地から、大阪や名古屋など、他県も視野に入れたごみ問題を取り上げ、パンフレット、ホームページ等により生徒の主張をアピールしている。

1 活動の趣旨

豊かな自然を守ろうと、以前から由良の町をあげて練子祭りの前に清掃活動が展開されていた。本校では、学校と家庭、地域社会が協力して子どもたちを育てることが大切であるとの考えに立ち、この活動を学校教育に取り込み、保護者、地域住民といっしょに運動に参加したことがその糸口となった。そこで、これまでの実践結果を活かしながら、さらに地域社会との連携を深め、より効果的な体験学習を実施し、保護者や地域住民とのふれあいにより、それぞれのふるさと（成ヶ島）への思いに気づき、郷土を愛する心を育むことを目的としている。さらに、環境保全の大切さを学び、より良い環境を自ら築こうとする態度を育成することにも、発展させていきたい。

2 活動の内容

（１）トライやる・ウィーク

トライやる・ウィークでは毎年１グループ（５名程度）が成ヶ島に渡る。地域のボランティア指導員に助けられながら、動植物の観察、清掃活動、植樹を行ったり、魚場の見学や漁法を学んだりする活動を１０年近く続けている。特に、昨年度は成ヶ島を訪れた中学生（名古屋市内の中学校、修学旅行）と交流会を持ち、海浜の清掃活動をいっしょに行ないながら、環境問題について話し合った。



[海浜の清掃活動]

（２）環境シンポジウム

午前中は成ヶ島でハマボウ鑑賞会と清掃活動を実施、午後は、本校体育館で「みんなで見

て考えよう成ヶ島」をテーマにシンポジウムを開催した。関係者による希少動植物、ウミガメ、由良湾のアマモ等の報告の後、本校生徒会代表がクリーン作戦や成ヶ島の自然、ゴミ問題、環境問題について発表した。また、ゴミ問題を中心に、瀬戸内海、大阪湾各地区の関係団体と意見交換を行ない、環境保全に対する姿勢を学んだ。



[シンポジウムでの発表]

(3) 成ヶ島クリーン作戦

全校生が保護者や地域住民と島の清掃活動に取り組んだ。10 数年の歴史があり、生徒も毎年楽しみにしている。また、今年度はクリーン作戦に加え、昨年植樹した抵抗性「松」を



[成ヶ島クリーン作戦]



[PTAによる炊き出し]

はじめ、希少樹木に名札を取り付けた。親子、地域住民が一体となった実体験で育まれた環境に対する意識とボランティア精神は、この中学校の伝統として受け継がれている。毎年、この日はPTAも朝からテントで炊き出しをして生徒を支援してくれている。

3 地域等との連携について

この地域では、子どもたちを大切に育てよう・育もうとする気質が今も残り、いつも児童・生徒を前面に出して活動を進めるよう計画が立てられる。成ヶ島関連行事だけでなく、どのような大会・集会であっても常に保護者や地域住民の応援する姿を見ることができる。

また、伝統的に学校と地域住民・関係団体との連携が十分で、情報交換はもちろん、諸行事についての意見や提案も気軽にされるなど、子どもたちを中心として町ぐるみで取り組もうとする気風が感じられ、学校行事も好意的に受け止められている。

4 今後の課題

これからも継続して取り組むものがほとんどの中、見直しや改善が必要なものも少なくない。

(1) シンポジウム

中学生にとって(大人の協議内容が)高度になることもあり、校区の小学校や他の中学校との交流を中心にしたものにシフトする必要がある。

(2) クリーン作戦

ややマンネリ化しており、清掃活動に新たな取り組みを加味したり、生徒たちの楽しみや励ましとなるものを考えていかなければならない。

(3) PTA や地域関係諸団体との連携

諸団体が多数関係する間で、学校が主体性(=環境教育・心の教育の推進)を發揮できるよう、活動内容や組織を整理する。

「守れ!先人の財産 ～いなみ野ため池群世界遺産化計画～」

兵庫県立農業高等学校教諭 長 光 雅 実
県農ため池調査班

〔取り組みの概要〕

本校周辺には約 1 万個のため池が点在し、全国有数のため池密度を誇っている。しかし近年その数が激減しており、本校学校農業クラブ専門班である『県農ため池調査班』が中心となり、地域の方々と協力しながら保全の可能性について研究・調査活動を行っている。

1 活動の趣旨

兵庫県には約 44,000 のため池（全国 1 位）があり、特に東播磨地域には、天満大池・加古大池など、歴史・文化的に価値のあるため池が多く分布している。しかし、家庭排水の流入やゴミの不法投棄等により、水質の汚染をはじめとした環境問題が課題となり、さらには管理する農家の減少によりため池の老朽化が目立ちはじめ、その数は年々減少している。



寺田池水質調査風景

「寺田池」の水を利用して水稻を栽培している本校では、安定したきれいな水の確保をめざし、農業クラブの専門班である「県農ため池調査班」を中心に、安全・安心な農産物を生産するため、水質調査やため池に分布する動植物の調査、水質浄化実験等を行っている。また自治体や水利組合・地域住民と連携し、ため池の管理・保全のみならず、ため池の新しい利活用の研究にも取り組んでいる。



東播磨地域のため池群

2 活動の内容

(1) 水質調査及び浄化への取り組み

水質の悪化が目立っているため池の現状を知るため、東播磨地区の主要なため池で、継続的に水質調査を実施し、その結果を県民局や水利組合に提供している。また、教科「課題研究」において『水質浄化装置の開発』というテーマで、水質改善の取り組みも行った。



水質浄化装置 試作品

(2) 生物生態調査と在来動植物の保護活動

各地のため池で生物生態調査を実施。その結果、生態系は特殊な構成をしており、多くの絶滅危惧種を確認。しかし、外来種の移入や、水質の変化により、絶滅危惧種が大きな影響を受けている事も確認できた。

絶滅危惧種を守る為、過繁茂する外来植物(オオフサモ、ボタンウキクサ)の駆除作業を適宜実施。さらに、このような現状を多くの人に伝えるため、機関紙「ヌートリア」



オオフサモ駆除作業風景

を通じて地域に情報提供を行うとともに、フォーラムでの発表やイベントでパネルを展示し、多くの方から活動に関する励ましや共感の声を頂いた。

(3) 学習活動

生徒は、独自の学習のみでなく、ため池やそれを取りまく環境や歴史、風景などについての学習をより深めるため、兵庫大学で開講されている講座(いなみ野ため池学 全12講座)や、県民局が主催するフィールドワーク、ため池学習会へ積極的に参加し、ため池に関する高度な知識を身に付けている。



兵庫大学講座 終了後

(4) 情報発信

活動をより広く知ってもらうため、県農ため池調査班の生徒が機関紙「ヌートリア」(平成15年7月1号、平成17年9月27号)を作成し、校内だけではなく、農業クラブHPや地域の掲示板等へ掲示し、広く地域へ情報発信を行っている。また農業クラブの大会にも参加し、プロジェクト発表競技 環境の部において、兵庫県大会、近畿大会ともに最優秀賞を受賞。10月下旬に行われる全国大会へ近畿ブロック代表として出場が決定している。



機関紙ヌートリア

3 地域との連携について



寺田池管理作業

寺田池をはじめとする各地のため池では、管理する農家の不足や高齢化のため、維持管理が困難になっている。そこで、班員自ら寺田池管理作業に参加。授業で学んだ刈払機の技術を活かし、水利組合と合同で寺田池に茂る草を刈っている。

また、来年度改修が予定されている「寺田池」の今後の利活用について、水利組合や地域の方々・有識者・自治体が一緒になって話し合う「寺田池の集い」に本校生も設立当初から参加し、日頃の調査や研究の成果をもとに、生徒が様々な意見を提案している。

さらに、ため池の保全・保護を目的に行う各種イベント(いなみ野ため池博覧会、クリーンキャンペーン)などにも参加している。



寺田池を語る会での発表

4 今後の課題

現在、地域の意識をさらに高めるため、「ため池群の世界遺産登録」という壮大な目標を掲げ、日々活動をしている。多くの課題があり現状ではかなり難しいが、地域の方々と協力しながら少しずつ実現に近づけていきたい。

さらに活動運営面での課題は、中心となって活動している『県農ため池調査班』に参加する生徒の確保である。解決策として継続的な活動となるように農業科や農業土木科としての活動へと発展させているが、将来的には全校生が取り組める活動にしていきたい。

「学校における環境教育の推進に向けて」

コーディネーター

谷口文章

甲南大学文学部教授

パネリスト

佐々真由美

豊岡市立三江小学校教諭

中尾浩二

洲本市立由良中学校教諭

長光雅実

県立農業高等学校教諭

戸田耿介

NPO法人こども環境活動支援協会専務理事

谷口 文章 甲南大学文学部人間科学科教授

専門分野は、哲学、環境学、生命倫理、環境倫理、環境教育学、環境教育の実践。「地球環境と世界市民」国際協会長、日中環境教育情報交流協会長など、国際的な学術活動にかかわるほか、日本環境教育学会の前事務局長、日本保健医療行動科学会常任理事など、多方面で活躍している。また、中国の北京大学や河北大学、北京育達工商学院などで客座教授、カナダ・ヴィクトリア大学やタイ・プラナコン・ラジャバト王立大学などの客員教授を歴任している。甲南大学のゼミでは、「いのち」と環境倫理をテーマに、自然、社会、心の環境の次元から、環境問題を追求するとともに、フィールドワークを重視し、甲南大学環境教育野外施設（広野）で農作業（田植え、野菜づくり）やピオトープの製作を行っている。また、高大連携の推進も行っている。

兵庫県においては、グリーンスクール審査委員会の副委員長であり、「海の環境教育」検討委員会副委員長、兵庫県環境審議会総合部会環境教育等検討小委員会委員長など、環境教育にかかわる諸活動に携わっている。

〔主な著書〕『西洋哲学基本事典』（共著 富士書店）『環境とライフスタイル』（共編 有斐閣）『地球規模の環境教育』（共著 ぎょうせい）『現代哲学の潮流』（共編 ミネルヴァ書房）ほか

戸田 耿介 NPO法人こども環境活動支援協会専務理事

専門分野は自然環境保全、環境教育システム。兵庫県立人と自然の博物館主任研究員時代には、学校の「総合的な学習の時間」における環境教育の推進に携わるほか、現在は、社団法人日本環境教育フォーラム監事、自然観察指導員兵庫連絡会代表なども務めている。野外活動や環境学習の分野、学校・企業など様々な組織において環境教育に関する企画や場の設定を支援している。兵庫県教育委員会（平成17年3月発行）の『「海・川・森」環境教育プログラム』開発委員長である。

「こども環境活動支援協会」は、市民・行政・事業者の連携を深めながら次代をになう子どもたちの環境活動を応援するために、平成10年4月に設立され、平成14年4月、特定非営利活動法人（NPO法人）として認証された。その活動には、「地域に根ざした環境教育を推進する西宮プロジェクトの実施」、「子どもたちへの環境学習を推進するための支援事業」や環境活動情報誌「りいふ」の発行など、学校における環境教育への支援も幅広く行っている。

〔主な著書〕『自然観察マニュアル』（ひょうご自然教室編著 長征社）『学校ピオトープ事例集』（阪神・都市ピオトープフォーラム編著 トンボ出版）ほか



1 趣 旨

学校教育において、豊かな自然の恵みに対する感謝の心や、人間の力を超越した自然に対する畏敬の念を育てるとともに、身近な環境から地球的規模の環境まで幅広く関心を高め、環境保全のための意欲を増進させ、課題解決に向けた実践的態度を養うことを目指している。

その具体的な取組として、自然観察等を通して、自然に親しみ、その仕組み等を理解し、実際に環境保全をめざす活動を行うなど、環境教育を一層推進する「海・川・森」環境教育推進プロジェクト事業を展開している。

2 実施内容

(1) 環境教育推進に係る研究推進校の指定

体験的に環境について理解を深めるとともに、環境保全等に取り組む実践的な態度を育成するため、学校の教育計画に環境教育を適切に位置づけるとともに、環境に関する効果的な体験的学習活動を実施するため、以下の推進校を指定している。

- ・海的环境教育実践推進校（平成 16・17 年度 2 年間指定、小・中学校 10 校）
- ・川的环境教育実践推進校（平成 17・18 年度 2 年間指定、小・中学校 10 校）
- ・森的环境教育実践推進校（平成 17・18 年度 2 年間指定、小・中学校 10 校）
- ・学校林(里山林)の環境教育実践推進校（平成 17・18 年度 2 年間指定、小・中学校 20 校）

(2) グリーンスクール表彰

平成 16 年度より、環境教育の一層の振興を図るため、環境保全活動など実践的環境教育を積極的に推進する活動において特色ある優れた実践を行っている学校をグリーンスクールとして表彰する。

- ・平成 16 年度 小学校 4 校、中学校 2 校、養護学校 1 校、高等学校 4 校 計 11 校を表彰

(3) 環境教育実践発表大会

先進校の実践事例発表やパネルディスカッションを通して、環境教育推進上の成果や課題等についての研究協議や情報交換を行い、学校における環境教育の振興を図る。

(4) 環境教育推進のための指導資料等の発行

- 『海的环境教育実践事例集』（平成 17 年 3 月発行）
- 『「海・川・森」の環境教育プログラム』（平成 17 年 3 月発行）

平成 17 年度 環境教育実践推進校一覧

研究テーマ	学 校 名
海的环境教育 実践推進校 10校	西宮市立甲子園浜小学校、姫路市立八木小学校、相生市立相生小学校、香美町立柴山小学校、南あわじ市立阿万小学校、姫路市立灘中学校、家島町立家島中学校、相生市立相生中学校、豊岡市立竹野中学校、洲本市立由良中学校
川的环境教育 実践推進校 10校	神戸市立美野丘小学校、芦屋市立精道小学校、高砂市立荒井小学校、丹波市立大路小学校、五色町立鳥飼小学校、神戸市立伊川谷中学校、尼崎市立武庫中学校、高砂市立荒井中学校、加古川市立神吉中学校、小野市立小野南中学校
森的环境教育 実践推進校 10校	川西市立北陵小学校、加西市立北条東小学校、宍粟市立波賀小学校、養父市立関宮小学校、淡路市立山田小学校、三木市立三木東中学校、神崎町立神崎中学校、宍粟市立一宮北中学校、養父市立大屋中学校、篠山市立今田中学校
学校林（里山林）環境教育 実践推進校 20校	神戸市立妙法寺小学校、西宮市立生瀬小学校、三田市立高平小学校、明石市立花園小学校、加古川市立上荘小学校、西脇市立双葉小学校、八千代町立八千代北小学校、大河内町立長谷小学校、宍粟市立神野小学校、豊岡市立弘道小学校、豊岡市立竹野南小学校、篠山市立村雲小学校、丹波市立新井小学校、神戸市立飛松中学校、三田市立藍中学校、夢前町立菅野中学校、宍粟市立千種中学校、香美町立兎塚中学校、丹波市立山南中学校、南あわじ市立御原中学校

